

Q0001

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント1：0と1の二つの数字で値を表す記数法

次の説明に最も合う用語はどれか。0と1の二つの数字で値を表す記数法

- A. 16進数
- B. 2進数
- C. 浮動小数点数
- D. 条件付き確率

答え・解説

Q0001 正答：B. 2進数

解説：2進数は、0と1の二つの数字で値を表す記数法。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0002

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント2：0と1の二つの数字で値を表す記数法

2進数の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- D. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

答え・解説

Q0002 正答：C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法

解説：2進数の要点は「0と1の二つの数字で値を表す記数法」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0003

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント3：0と1の二つの数字で値を表す記数法

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「2進数」である。

- A. 16進数：0と1の二つの数字で値を表す記数法
- B. 浮動小数点数：0と1の二つの数字で値を表す記数法
- C. 条件付き確率：0と1の二つの数字で値を表す記数法
- D. 2進数：0と1の二つの数字で値を表す記数法

答え・解説

Q0003 正答：D. 2進数：0と1の二つの数字で値を表す記数法

解説：正しい組合せは「2進数：0と1の二つの数字で値を表す記数法」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0004

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント4：0と1の二つの数字で値を表す記数法

「2進数」は、0と1の二つの数字で値を表す記数法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0004 正答：○

解説：正しい。2進数は0と1の二つの数字で値を表す記数法。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0005

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント5：0と1の二つの数字で値を表す記数法

組織が「0と1の二つの数字で値を表す記数法」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 16進数
- B. 2進数
- C. 浮動小数点数
- D. 条件付き確率

答え・解説

Q0005 正答：B. 2進数

解説：この目的に対応するのは2進数である。0と1の二つの数字で値を表す記数法という機能・考え方を持つためである。

Q0006

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント6：0と1の二つの数字で値を表す記数法

「2進数」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- D. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

答え・解説

Q0006 正答：C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法

解説：2進数は0と1の二つの数字で値を表す記数法。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0007

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント7：0と1の二つの数字で値を表す記数法

「2進数」は、0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0007 正答：×

解説：誤り。記述は16進数の説明である。2進数は0と1の二つの数字で値を表す記数法。

Q0008

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント8：0と1の二つの数字で値を表す記数法

次の状況で中心となる論点はどれか。「0と1の二つの数字で値を表す記数法」ことが求められている。

- A. 2進数
- B. 浮動小数点数
- C. 条件付き確率
- D. 16進数

答え・解説

Q0008 正答：A. 2進数

解説：中心となる論点は2進数である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0009

基礎理論

タグ：2進数

用語：2進数の確認ポイント9：0と1の二つの数字で値を表す記数法

「0と1の二つの数字で値を表す記数法」という特徴を持つものを選び。

- A. 条件付き確率
- B. 2進数
- C. 浮動小数点数
- D. 16進数

答え・解説

Q0009 正答：B. 2進数

解説：2進数が該当する。定義は0と1の二つの数字で値を表す記数法であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0010

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント1：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

次の説明に最も合う用語はどれか。0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

- A. 2の補数
- B. 論理積
- C. 16進数
- D. グラフ

答え・解説

Q0010 正答：C. 16進数

解説：16進数は、0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0011

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント2：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

16進数の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- B. 全ての入力が真のときだけ真となる論理演算
- C. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- D. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

答え・解説

Q0011 正答：D. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

解説：16進数の要点は「0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0012

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント3：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「16進数」である。

- A. 16進数：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- B. 2の補数：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- C. 論理積：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- D. グラフ：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

答え・解説

Q0012 正答：A. 16進数：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

解説：正しい組合せは「16進数：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0013

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント4：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

「16進数」は、0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0013 正答：○

解説：正しい。16進数は0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0014

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント5：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

組織が「0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 2の補数
- B. 論理積
- C. 16進数
- D. グラフ

答え・解説

Q0014 正答：C. 16進数

解説：この目的に対応するのは16進数である。0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法という機能・考え方を持つためである。

Q0015

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント6：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

「16進数」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- B. 全ての入力が真のときだけ真となる論理演算
- C. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- D. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

答え・解説

Q0015 正答：D. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

解説：16進数は0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0016

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント7：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

「16進数」は、負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0016 正答：×

解説：誤り。記述は2の補数の説明である。16進数は0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法。

Q0017

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント8：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

次の状況で中心となる論点はどれか。「0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法」ことが求められている。

- A. 論理積
- B. 16進数
- C. グラフ
- D. 2の補数

答え・解説

Q0017 正答：B. 16進数

解説：中心となる論点は16進数である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0018

基礎理論

タグ：16進数

用語：16進数の確認ポイント9：0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

「0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法」という特徴を持つものを選べ。

- A. グラフ
- B. 論理積
- C. 16進数
- D. 2の補数

答え・解説

Q0018 正答：C. 16進数

解説：16進数が該当する。定義は0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0019

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント1：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

次の説明に最も合う用語はどれか。負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

- A. 浮動小数点数
- B. 排他的論理和
- C. 待ち行列
- D. 2の補数

答え・解説

Q0019 正答：D. 2の補数

解説：2の補数は、負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0020

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント2：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

2の補数の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算
- D. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

答え・解説

Q0020 正答：A. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

解説：2の補数の要点は「負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0021

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント3：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「2の補数」である。

- A. 浮動小数点数：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- B. 2の補数：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- C. 排他的論理和：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- D. 待ち行列：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

答え・解説

Q0021 正答：B. 2の補数：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

解説：正しい組合せは「2の補数：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0022

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント4：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

「2の補数」は、負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0022 正答：○

解説：正しい。2の補数は負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0023

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント5：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

組織が「負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 浮動小数点数
- B. 排他的論理和
- C. 待ち行列
- D. 2の補数

答え・解説

Q0023 正答：D. 2の補数

解説：この目的に対応するのは2の補数である。負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現という機能・考え方を持つためである。

Q0024

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント6：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

「2の補数」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- B. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- C. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算
- D. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

答え・解説

Q0024 正答：A. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

解説：2の補数は負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0025

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント7：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

「2の補数」は、符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0025 正答：×

解説：誤り。記述は浮動小数点数の説明である。2の補数は負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現。

Q0026

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント8：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

次の状況で中心となる論点はどれか。「負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現」ことが求められている。

- A. 排他的論理和
- B. 待ち行列
- C. 2の補数
- D. 浮動小数点数

答え・解説

Q0026 正答：C. 2の補数

解説：中心となる論点は2の補数である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0027

基礎理論

タグ：2の補数

用語：2の補数の確認ポイント9：負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現

「負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現」という特徴を持つものを選び。

- A. 待ち行列
- B. 排他的論理和
- C. 浮動小数点数
- D. 2の補数

答え・解説

Q0027 正答：D. 2の補数

解説：2の補数が該当する。定義は負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0028

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント1：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

次の説明に最も合う用語はどれか。符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

- A. 浮動小数点数
- B. 論理積
- C. 集合の積
- D. 2進数

答え・解説

Q0028 正答：A. 浮動小数点数

解説：浮動小数点数は、符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0029

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント2：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

浮動小数点数の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 全ての入力が真のときだけ真となる論理演算
- B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- D. 0と1の二つの数字で値を表す記数法

答え・解説

Q0029 正答：B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

解説：浮動小数点数の要点は「符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0030

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント3：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「浮動小数点数」である。

- A. 論理積：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- B. 集合の積：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 浮動小数点数：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- D. 2進数：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

答え・解説

Q0030 正答：C. 浮動小数点数：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

解説：正しい組合せは「浮動小数点数：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0031

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント4：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

「浮動小数点数」は、符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0031 正答：○

解説：正しい。浮動小数点数は符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0032

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント5：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

組織が「符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

A. 浮動小数点数

B. 論理積

C. 集合の積

D. 2進数

答え・解説

Q0032 正答：A. 浮動小数点数

解説：この目的に対応するのは浮動小数点数である。符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式という機能・考え方を持つためである。

Q0033

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント6：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

「浮動小数点数」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- D. 全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

答え・解説

Q0033 正答：B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

解説：浮動小数点数は符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0034

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント7：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

「浮動小数点数」は、全ての入力が真のときだけ真となる論理演算。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0034 正答：×

解説：誤り。記述は論理積の説明である。浮動小数点数は符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式。

Q0035

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント8：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

次の状況で中心となる論点はどれか。「符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式」ことが求められている。

- A. 集合の積
- B. 2進数
- C. 論理積
- D. 浮動小数点数

答え・解説

Q0035 正答：D. 浮動小数点数

解説：中心となる論点は浮動小数点数である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0036

基礎理論

タグ：浮動小数点数

用語：浮動小数点数の確認ポイント9：符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

「符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式」という特徴を持つものを選べ。

- A. 浮動小数点数
- B. 2進数
- C. 集合の積
- D. 論理積

答え・解説

Q0036 正答：A. 浮動小数点数

解説：浮動小数点数が該当する。定義は符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0037

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント1：全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

次の説明に最も合う用語はどれか。全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

- A. 排他的論理和
- B. 論理積
- C. 条件付き確率
- D. 16進数

答え・解説

Q0037 正答：B. 論理積

解説：論理積は、全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0038

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント2：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

論理積の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 二つの入力 that 異なるとき真となる論理演算
- B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- C. 全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算
- D. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法

答え・解説

Q0038 正答：C. 全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

解説：論理積の要点は「全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0039

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント3：全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「論理積」である。

- A. 排他的論理和：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算
- B. 条件付き確率：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算
- C. 16進数：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算
- D. 論理積：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

答え・解説

Q0039 正答：D. 論理積：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

解説：正しい組合せは「論理積：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0040

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント4：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

「論理積」は、全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0040 正答：○

解説：正しい。論理積は全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0041

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント5：全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

組織が「全ての入力が真のときだけ真となる論理演算」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 排他的論理和
- B. 論理積
- C. 条件付き確率
- D. 16進数

答え・解説

Q0041 正答：B. 論理積

解説：この目的に対応するのは論理積である。全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算という機能・考え方を持つためである。

Q0042

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント6：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

「論理積」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- C. 全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算
- D. 二つの入力 that 異なるとき真となる論理演算

答え・解説

Q0042 正答：C. 全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

解説：論理積は全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0043

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント7：全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

「論理積」は、二つの入力が異なるとき真となる論理演算。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0043 正答：×

解説：誤り。記述は排他的論理和の説明である。論理積は全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算。

Q0044

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント8：全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算

次の状況で中心となる論点はどれか。「全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算」ことが求められている。

A. 論理積

B. 条件付き確率

C. 16進数

D. 排他的論理和

答え・解説

Q0044 正答：A. 論理積

解説：中心となる論点は論理積である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0045

基礎理論

タグ：論理積

用語：論理積の確認ポイント9：全ての入力が真のときだけ真となる論理演算

「全ての入力が真のときだけ真となる論理演算」という特徴を持つものを選び。

- A. 16進数
- B. 論理積
- C. 条件付き確率
- D. 排他的論理和

答え・解説

Q0045 正答：B. 論理積

解説：論理積が該当する。定義は全ての入力 that 真のときだけ真となる論理演算であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0046

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント1：二つの入力 that 異なるとき真となる論理演算

次の説明に最も合う用語はどれか。二つの入力 that 異なるとき真となる論理演算

- A. 集合の積
- B. グラフ
- C. 排他的論理和
- D. 2の補数

答え・解説

Q0046 正答：C. 排他的論理和

解説：排他的論理和は、二つの入力 that 異なるとき真となる論理演算。ほかの選択肢は目的又は適用場面 that 異なる。

Q0047

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント2：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

排他的論理和の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- B. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- C. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- D. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算

答え・解説

Q0047 正答：D. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算

解説：排他的論理和の要点は「二つの入力が異なるとき真となる論理演算」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0048

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント3：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「排他的論理和」である

。

- A. 排他的論理和：二つの入力が異なるとき真となる論理演算
- B. 集合の積：二つの入力が異なるとき真となる論理演算
- C. グラフ：二つの入力が異なるとき真となる論理演算
- D. 2の補数：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

答え・解説

Q0048 正答：A. 排他的論理和：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

解説：正しい組合せは「排他的論理和：二つの入力が異なるとき真となる論理演算」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0049

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント4：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

「排他的論理和」は、二つの入力が異なるとき真となる論理演算。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0049 正答：○

解説：正しい。排他的論理和は二つの入力が異なるとき真となる論理演算。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0050

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント5：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

組織が「二つの入力が異なるとき真となる論理演算」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

A. 集合の積

B. グラフ

C. 排他的論理和

D. 2の補数

答え・解説

Q0050 正答：C. 排他的論理和

解説：この目的に対応するのは排他的論理和である。二つの入力が異なるとき真となる論理演算という機能・考え方を持つためである。

Q0051

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント6：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

「排他的論理和」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- B. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- C. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- D. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算

答え・解説

Q0051 正答：D. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算

解説：排他的論理和は二つの入力が異なるとき真となる論理演算。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0052

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント7：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

「排他的論理和」は、二つの集合に共通して含まれる要素の集合。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0052 正答：×

解説：誤り。記述は集合の積の説明である。排他的論理和は二つの入力が異なるとき真となる論理演算。

Q0053

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント8：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

次の状況で中心となる論点はどれか。「二つの入力が異なるとき真となる論理演算」ことが求められている。

- A. グラフ
- B. 排他的論理和
- C. 2の補数
- D. 集合の積

答え・解説

Q0053 正答：B. 排他的論理和

解説：中心となる論点は排他的論理和である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0054

基礎理論

タグ：排他的論理和

用語：排他的論理和の確認ポイント9：二つの入力が異なるとき真となる論理演算

「二つの入力が異なるとき真となる論理演算」という特徴を持つものを選べ。

- A. 2の補数
- B. グラフ
- C. 排他的論理和
- D. 集合の積

答え・解説

Q0054 正答：C. 排他的論理和

解説：排他的論理和が該当する。定義は二つの入力 that 異なるとき真となる論理演算であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0055

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント1：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

次の説明に最も合う用語はどれか。二つの集合に共通して含まれる要素の集合

- A. 条件付き確率
- B. 待ち行列
- C. 浮動小数点数
- D. 集合の積

答え・解説

Q0055 正答：D. 集合の積

解説：集合の積は、二つの集合に共通して含まれる要素の集合。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0056

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント2：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

集合の積の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- C. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- D. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式

答え・解説

Q0056 正答：A. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合

解説：集合の積の要点は「二つの集合に共通して含まれる要素の集合」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0057

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント3：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「集合の積」である。

- A. 条件付き確率：二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- B. 集合の積：二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- C. 待ち行列：二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- D. 浮動小数点数：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

答え・解説

Q0057 正答：B. 集合の積：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

解説：正しい組合せは「集合の積：二つの集合に共通して含まれる要素の集合」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0058

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント4：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

「集合の積」は、二つの集合に共通して含まれる要素の集合。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0058 正答：○

解説：正しい。集合の積は二つの集合に共通して含まれる要素の集合。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0059

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント5：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

組織が「二つの集合に共通して含まれる要素の集合」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 条件付き確率
- B. 待ち行列
- C. 浮動小数点数
- D. 集合の積

答え・解説

Q0059 正答：D. 集合の積

解説：この目的に対応するのは集合の積である。二つの集合に共通して含まれる要素の集合という機能・考え方を持つためである。

Q0060

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント6：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

「集合の積」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- B. 符号・指数部・仮数部で実数を近似表現する方式
- C. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- D. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

答え・解説

Q0060 正答：A. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合

解説：集合の積は二つの集合に共通して含まれる要素の集合。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0061

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント7：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

「集合の積」は、ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0061 正答：×

解説：誤り。記述は条件付き確率の説明である。集合の積は二つの集合に共通して含まれる要素の集合。

Q0062

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント8：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

次の状況で中心となる論点はどれか。「二つの集合に共通して含まれる要素の集合」ことが求められている。

A. 待ち行列

B. 浮動小数点数

C. 集合の積

D. 条件付き確率

答え・解説

Q0062 正答：C. 集合の積

解説：中心となる論点は集合の積である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0063

基礎理論

タグ：集合の積

用語：集合の積の確認ポイント9：二つの集合に共通して含まれる要素の集合

「二つの集合に共通して含まれる要素の集合」という特徴を持つものを選べ。

- A. 浮動小数点数
- B. 待ち行列
- C. 条件付き確率
- D. 集合の積

答え・解説

Q0063 正答：D. 集合の積

解説：集合の積が該当する。定義は二つの集合に共通して含まれる要素の集合であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0064

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント1：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

次の説明に最も合う用語はどれか。ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

- A. 条件付き確率
- B. グラフ
- C. 2進数
- D. 論理積

答え・解説

Q0064 正答：A. 条件付き確率

解説：条件付き確率は、ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0065

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント2：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

条件付き確率の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- D. 全ての入力が入ったときだけ真となる論理演算

答え・解説

Q0065 正答：B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

解説：条件付き確率の要点は「ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0066

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント3：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「条件付き確率」である。

- A. グラフ：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- B. 2進数：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- C. 条件付き確率：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- D. 論理積：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

答え・解説

Q0066 正答：C. 条件付き確率：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

解説：正しい組合せは「条件付き確率：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0067

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント4：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

「条件付き確率」は、ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0067 正答：○

解説：正しい。条件付き確率はある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0068

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント5：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

組織が「ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 条件付き確率
- B. グラフ
- C. 2進数
- D. 論理積

答え・解説

Q0068 正答：A. 条件付き確率

解説：この目的に対応するのは条件付き確率である。ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率という機能・考え方を持つためである。

Q0069

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント6：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

「条件付き確率」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 全ての入力が真のときだけ真となる論理演算
- B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率
- C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- D. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

答え・解説

Q0069 正答：B. ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

解説：条件付き確率はある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0070

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント7：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

「条件付き確率」は、頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0070 正答：×

解説：誤り。記述はグラフの説明である。条件付き確率はある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率。

Q0071

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント8：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

次の状況で中心となる論点はどれか。「ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率」ことが求められている。

- A. 2進数
- B. 論理積
- C. グラフ
- D. 条件付き確率

答え・解説

Q0071 正答：D. 条件付き確率

解説：中心となる論点は条件付き確率である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0072

基礎理論

タグ：条件付き確率

用語：条件付き確率の確認ポイント9：ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率

「ある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率」という特徴を持つものを選べ。

- A. 条件付き確率
- B. 論理積
- C. 2進数
- D. グラフ

答え・解説

Q0072 正答：A. 条件付き確率

解説：条件付き確率が該当する。定義はある事象が起きた条件の下で別の事象が起きる確率であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0073

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント1：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

次の説明に最も合う用語はどれか。頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

- A. 待ち行列
- B. グラフ
- C. 16進数
- D. 排他的論理和

答え・解説

Q0073 正答：B. グラフ

解説：グラフは、頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0074

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント2：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

グラフの説明として最も適切なものはどれか。

- A. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- B. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- C. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- D. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算

答え・解説

Q0074 正答：C. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

解説：グラフの要点は「頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0075

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント3：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「グラフ」である。

- A. 待ち行列：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- B. 16進数：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- C. 排他的論理和：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- D. グラフ：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

答え・解説

Q0075 正答：D. グラフ：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

解説：正しい組合せは「グラフ：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造」。用語だけでなく、何を守り、何进行处理する概念かを確認する。

Q0076

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント4：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

「グラフ」は、頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0076 正答：○

解説：正しい。グラフは頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0077

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント5：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

組織が「頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 待ち行列
- B. グラフ
- C. 16進数
- D. 排他的論理和

答え・解説

Q0077 正答：B. グラフ

解説：この目的に対応するのはグラフである。頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造という機能・考え方を持つためである。

Q0078

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント6：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

「グラフ」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 二つの入力が異なるとき真となる論理演算
- B. 0～9とA～Fを用い一桁で16通りを表す記数法
- C. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造
- D. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

答え・解説

Q0078 正答：C. 頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

解説：グラフは頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0079

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント7：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

「グラフ」は、先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q0079 正答：×

解説：誤り。記述は待ち行列の説明である。グラフは頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造。

Q0080

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント8：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

次の状況で中心となる論点はどれか。「頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造」ことが求められている。

A. グラフ

B. 16進数

C. 排他的論理和

D. 待ち行列

答え・解説

Q0080 正答：A. グラフ

解説：中心となる論点はグラフである。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0081

基礎理論

タグ：グラフ

用語：グラフの確認ポイント9：頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造

「頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造」という特徴を持つものを選べ。

- A. 排他的論理和
- B. グラフ
- C. 16進数
- D. 待ち行列

答え・解説

Q0081 正答：B. グラフ

解説：グラフが該当する。定義は頂点と辺で要素間の関係を表すデータ構造であり、他の候補とは機能が異なる。

Q0082

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント1：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

次の説明に最も合う用語はどれか。先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

- A. 2進数
- B. 2の補数
- C. 待ち行列
- D. 集合の積

答え・解説

Q0082 正答：C. 待ち行列

解説：待ち行列は、先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造。ほかの選択肢は目的又は適用場面が異なる。

Q0083

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント2：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

待ち行列の説明として最も適切なものはどれか。

- A. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- B. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- C. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- D. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

答え・解説

Q0083 正答：D. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

解説：待ち行列の要点は「先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造」である。名称が似た概念でも、対象とする処理や目的を区別する。

Q0084

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント3：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

用語と説明の組合せとして適切なものはどれか。論点は「待ち行列」である。

- A. 待ち行列：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- B. 2進数：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- C. 2の補数：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造
- D. 集合の積：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

答え・解説

Q0084 正答：A. 待ち行列：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

解説：正しい組合せは「待ち行列：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造」。用語だけでなく、何を守り、何を処理する概念かを確認する。

Q0085

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント4：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

「待ち行列」は、先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0085 正答：○

解説：正しい。待ち行列は先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造。実務では対象、目的、前提条件を併せて確認する。

Q0086

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント5：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

組織が「先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造」ために採用すべき概念又は仕組みはどれか。

- A. 2進数
- B. 2の補数
- C. 待ち行列
- D. 集合の積

答え・解説

Q0086 正答：C. 待ち行列

解説：この目的に対応するのは待ち行列である。先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造という機能・考え方を持つためである。

Q0087

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント6：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

「待ち行列」について、誤解を避けるための説明として最も適切なものはどれか。

- A. 二つの集合に共通して含まれる要素の集合
- B. 負数を表し加減算回路を共通化しやすい表現
- C. 0と1の二つの数字で値を表す記数法
- D. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

答え・解説

Q0087 正答：D. 先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

解説：待ち行列は先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造。似た用語との違いは、対象、時点、責任又は処理方法にある。

Q0088

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント7：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

「待ち行列」は、0と1の二つの数字で値を表す記数法。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q0088 正答：×

解説：誤り。記述は2進数の説明である。待ち行列は先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造。

Q0089

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント8：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

次の状況で中心となる論点はどれか。「先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造」ことが求められている。

- A. 2の補数
- B. 待ち行列
- C. 集合の積
- D. 2進数

答え・解説

Q0089 正答：B. 待ち行列

解説：中心となる論点は待ち行列である。判断では、説明中の目的語と処理の方向を手掛かりにする。

Q0090

基礎理論

タグ：待ち行列

用語：待ち行列の確認ポイント9：先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造

「先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造」という特徴を持つものを選べ。

- A. 集合の積
- B. 2の補数
- C. 待ち行列
- D. 2進数

答え・解説

Q0090 正答：C. 待ち行列

解説：待ち行列が該当する。定義は先に入れた要素を先に取り出すFIFOのデータ構造であり、他の候補とは機能が異なる。